



# 2017年1月期第2四半期 決算説明資料

2016年9月9日

**ベステラ株式会社**  
東証マザーズ(証券コード:1433)

# 本資料についてのご留意事項

---

- 本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

**ベステラ株式会社**



Copyright © BESTERRA CO., LTD All rights reserved.

# 決算のポイント

売上高

**1,906**百万円  
(前年比2.0%)

受注残高

**2,894**百万円  
(前年比▲7.2%)

- ・第2四半期累計期間の売上高は、前年同期比2.0%増の1,906百万円となりました。営業利益は、先行投資による販管費増のため、13.3%減の231百万円となりました。
- ・第2四半期会計期間(5月～7月)で比較すると、売上高1,010百万円(73.1%増)、営業利益141百万円(666.8%増)となります。
- ・第2四半期の受注残高は、前年同期比7.2%減の2,894百万円となりました。前年第2四半期の長期大型受注残を消化しながら、積極的に受注活動を推進しております。
- ・順調な受注残の消化と旺盛なプラント解体需要の取り込みにより、業績は期初予想に沿って進捗しています。このため、前回発表の業績予想に変更はありません。

## 損益計算書: 第2四半期 (2017年1月期)

堅調な工事の推移により、売上高は前年を上回りました。利益については、人材採用、広告宣伝、3D計測事業の設備等の先行投資により、前年を下回っております。

単位: 百万円

	2017年1月期 第2四半期	対売上高 比率	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	1,906	—	1,867	38	2.0%
売上総利益	454	23.9%	441	13	3.0%
販売費及び 一般管理費	<b>223</b>	11.7%	174	<b>▲48</b>	<b>27.8%</b>
営業利益	231	12.1%	266	▲35	▲13.3%
経常利益	233	12.2%	285	▲52	▲18.3%
四半期純利益	153	8.1%	183	▲29	▲16.1%

## 第2四半期会計期間 (5月～7月) 比較

例年は、完成する工事が少なく、売上の計上が少ない会計期間でしたが、当期は堅調に売上高を積み増しすることができました。

単位: 百万円

	2017年1月期 第2四半期	前年同期	前年同期比 増減率
損益計算書			
売上高	1,010	583	73.1%
売上総利益	254	115	120.1%
販売費及び 一般管理費	112	97	▲16.2%
営業利益	141	18	666.8%
経常利益	142	35	301.2%
四半期純利益	94	26	255.2%

## 受注状況：第2四半期 (2017年1月期)

当四半期の受注残高は高水準を維持しております。前年同期の受注工事高は、長期大型工事の受注によるものが大半でありましたが、当期は多くの案件に分散して受注しております。

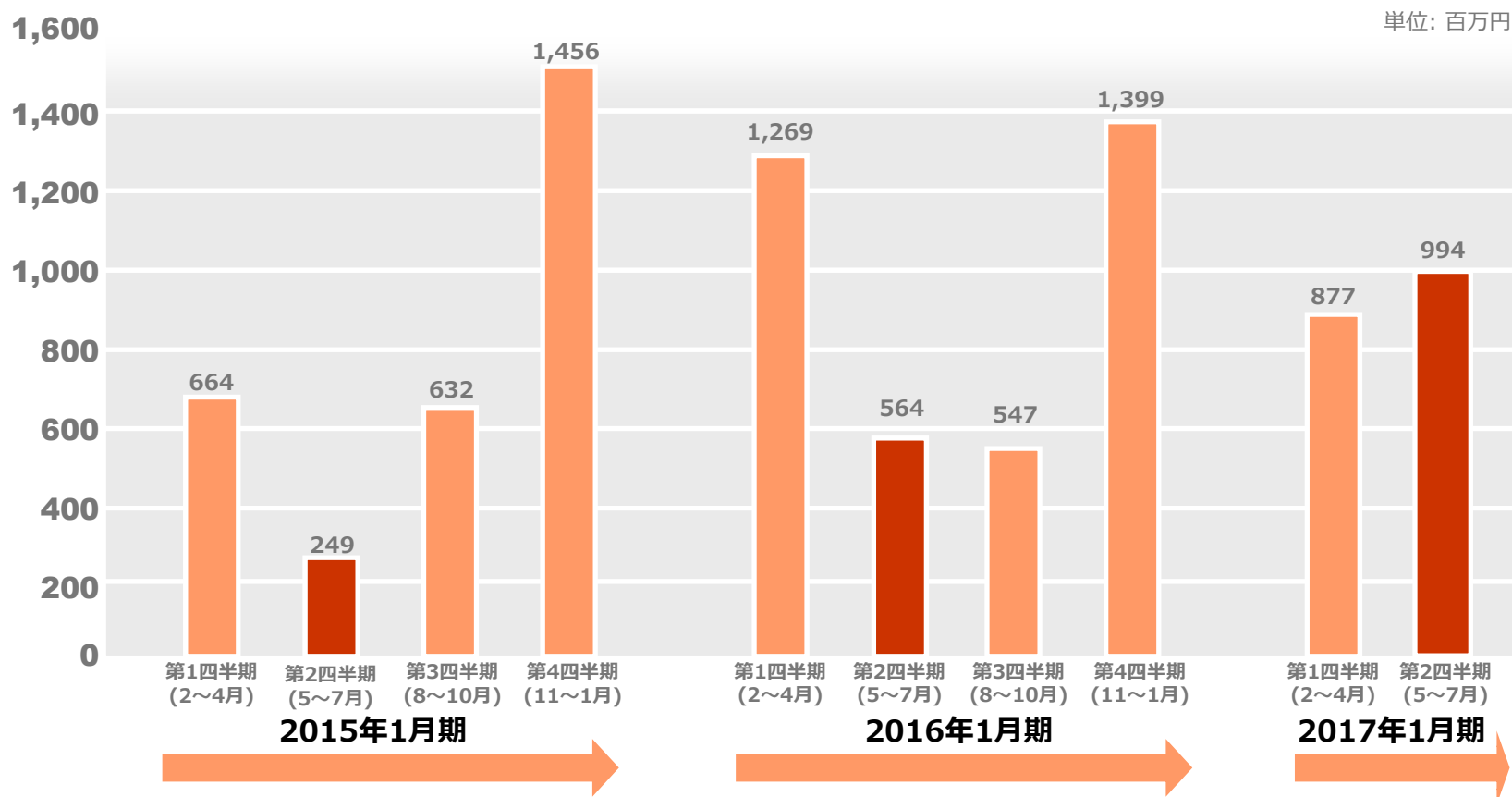
単位: 百万円

	2017年1月期 第2四半期	前年同期	増減額	増減率
期首繰越工事高	3,362	1,642	1,719	104.7%
受注工事高	1,403	3,310 (2,220)	▲1,907	▲57.6%
完成工事高	1,871	1,834	37	2.0%
期末繰越工事高 (受注残高)	2,894	3,118 (2,220)	▲224	▲7.2%

※前年同期の受注工事高及び期末繰越工事高の下段は、長期大型工事の金額であります。

# 完成工事高の推移について

当社の完成工事高は、顧客(施主)の設備投資計画に応じた季節性があります。第4四半期及び、第1四半期に計上される割合が高くなる傾向があります。

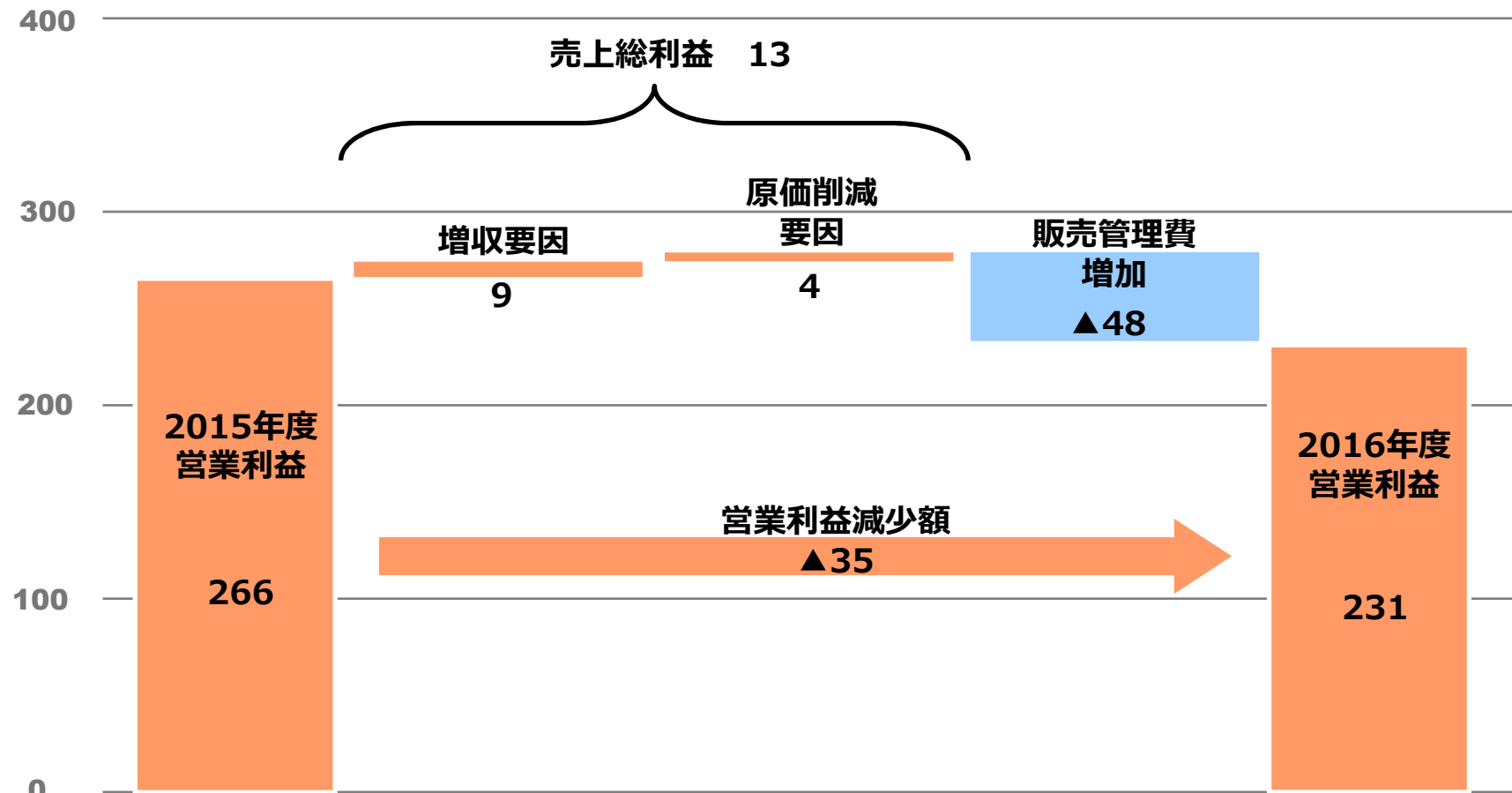


※当期は、大型の進行基準工事があるため平準化の傾向にあります。ただし、第4四半期会計期間に計上される割合は、例年通り高くなる見通しです。

# 営業利益の増減要因分析：第2四半期 (2017年1月期)

営業利益は、人材採用、広告宣伝、3D計測事業の設備等の先行投資のため、前年同期比13.2% (35百万円)の減益となっております。

単位: 百万円





## 販売費及び一般管理費：第2四半期（2017年1月期）

人材採用、広告宣伝、3D計測事業の設備等の先行投資を通期の計画通りに進めております。また、当第2四半期より、京都大学、山口大学等と共同でロボット開発を開始しております。

単位：百万円

	2017年1月期 第2四半期	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	主な増減要因
人件費	108	96	11	12.3%	事業拡大のための人員増
研究開発費	1	—	1	—	ロボット開発の開始
支払手数料 支払報酬	27	18	9	51.7%	上場の維持費用
広告宣伝費	12	5	6	115.6%	展示会の出展、HP改修
減価償却費	12	10	2	19.5%	3D計測機器の増加
その他	60	43	16	38.4%	租税公課（外形標準）他
合計	223	174	48	27.8%	

## 貸借対照表：第2四半期 (2017年1月期)

大型の進行基準工事により、売上債権が増え現金預金が減少しております。  
これに伴い、短期借入金が発生しております。

単位：百万円

	当事業年度 2017年1月期	前事業年度末	増減額	主な増減要因
流動資産	2,887	2,805	81	大型工事の進行による現金預金の減少及び債権の増加によるもの
(うち現金預金)	(510)	(1,079)	(▲568)	
固定資産	410	417	▲7	3D計測機器の減価償却によるもの
流動負債	1,118	1,032	86	大型工事に備えた借入金の発生によるもの
固定負債	91	139	▲48	社債が流動負債になったことによるもの
純資産	2,087	2,051	36	純利益の増加によるもの
総資産	3,297	3,223	73	

# パーフェクト3D

東京スカイツリーから墨田区役所周辺区域  
(計測面積:74万1,522m<sup>2</sup>)の3次元点群データ化を実現しました。

## 1. 地上

固定型レーザースキャナを使用した、建築物内部・外部の点群データ

## 2. 地上 + MMS (モービルマッピングシステム)

MMSを使用した路面及び道路周辺の点群データを合成

## 3. 地上 + MMS + 航空

ヘリコプター等に搭載した航空レーザーでの広範囲な計測により、高高度及び上方向からのデータを補完

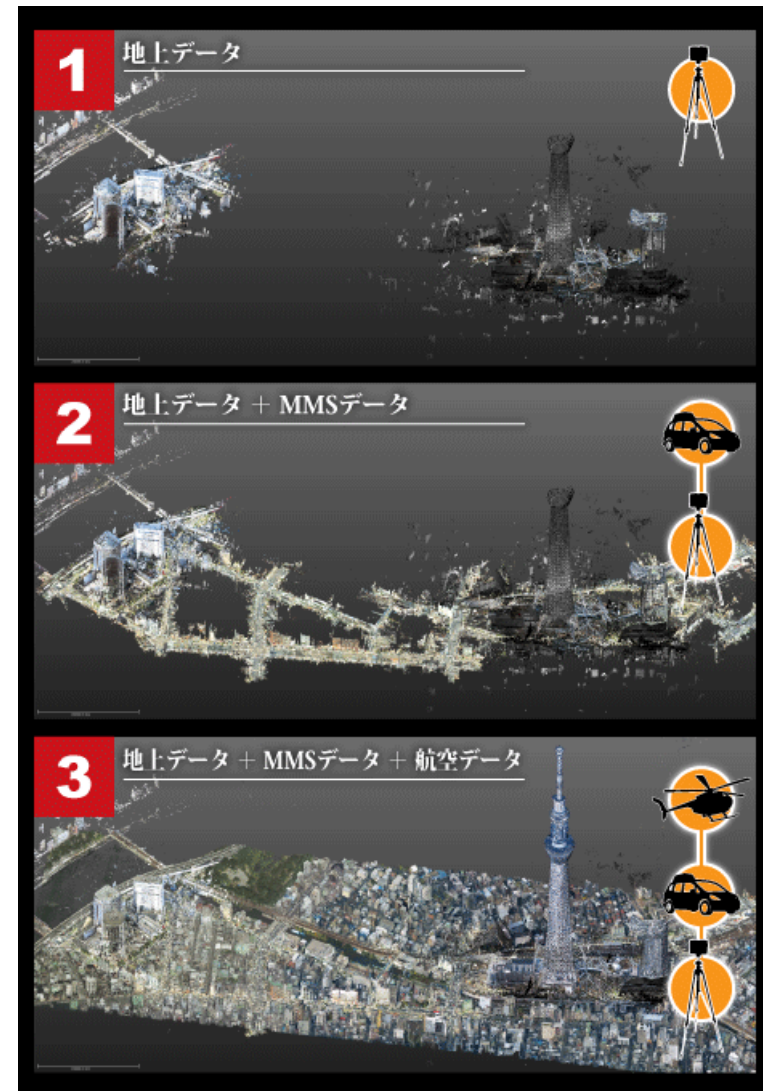
<想定している効果・用途>

(1) プラントの全体像の直観的なデータ利用

(2) プラント全体の改修・解体・入替等の各種エンジニアリング用途での利用

(3) VR (バーチャル・リアリティ) による作業シミュレーション、空飛ぶ擬似観光体験など

<https://besterra3d.com/news/2016/002308.html>



# 3D解体の実現を目指したロボット開発

当社は、「点群3D Map利用ロボット」を研究題目とした共同研究契約の締結に合意しました。



目的

本研究の目的は、3D点群マップを基に自律動作するロボットの開発をするものです。自律作動ロボットにおける自動プラント監視や自動施工、原子力発電所の解体への活用も視野に入れております。

期間

今回の契約による共同研究の期間は2017年3月31日までです。なお、開発全体は3ヶ年を予定しております。

# <参考資料> 3D点群MAPロボット 稼働イメージ

1

## 自律移動・作業ロボットのプログラミング

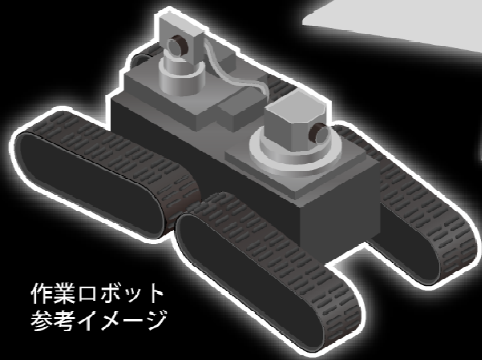
作業地点と基本経路をロボットに入力し、作業内容を指示します。

### 作動プログラム

切断などの解体動作

3D点群マップを利用して対象物へアプローチ

指定位置へ戻り、終了

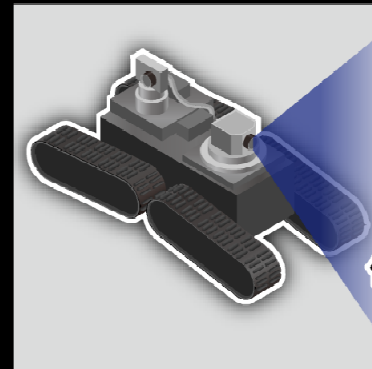


作業ロボット  
参考イメージ

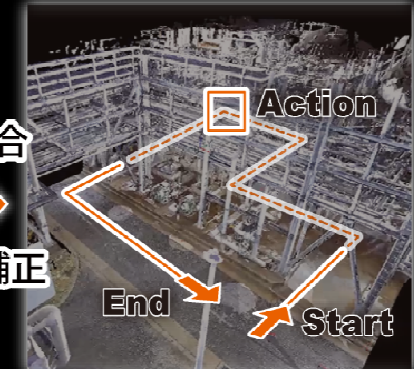
2

## コンピュータビジョンに基づいた自律移動・作業の実行

3D点群マップによる基本経路において、コンピュータビジョンで検出した障害物を回避し、自律的に作業内容を遂行します。



比較照合  
作動を補正



視覚センサーからの奥行情報

入力済みの3D点群マップ

### 活用方法

自動プラント監視

各種自動施工

原子力発電所の解体

視覚センサーから得られた奥行情報と3D点群の比較照合により、作動をリアルタイムで補正します。

人間が立ち入ることができない状況下で、自律作動による監視や施工を目指します。

# 株主還元

## 配当の継続

### ■前期実績

期末配当：1株当たり35円＋記念配当10円

※2016年2月1日付株式分割(1:2)後の金額で計算しております。

### ■今期予定

1株当たり**40円**(中間配当10円＋期末配当30円予定)

## 株主優待の新設

■株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの方々に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的としております。

### ■**2,000円分のQUOカード**を贈呈。

※毎年1月31日現在の株主名簿に記録された、1单元(100株)以上保有されている株主様を対象としております。

